

研究結果説明書（事後）

研究種別	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">総理研研究</div> ・ 重点化研究				
研究課題名	甲州印伝への山梨県産鹿革の活用とプロダクトの試作開発				
研究期間	平成27年度 ～ 28年度（2か年）				
研究体制	研究代表者（所属）	串田賢一・鈴木文晃・佐藤博紀（山梨県産業技術センター）			
	共同研究者（所属）	小平真佐夫（山梨県富士山科学研究所） （※）その他担当者：渡辺誠（山梨県産業技術センター）			
研究予算	H27年度 7,909千円	H28年度 5,436千円			合計 10,522千円
研究成果	<p>概要</p> <p>本研究は、管理捕獲されたニホンジカから得られる皮を甲州印伝の素材として利用するための取組を行い、森林・農業被害の問題と伝統工芸振興を結びつけ、新たな価値づくりを図ることを目的として実施した。</p> <p>この中では、富士北麓地域に生息するニホンジカの捕獲・利用をモデルケースとして、印伝に用いることのできる鹿なめし革及び新たな印伝文様を開発、これを素材として名刺ケース、長財布、トートバック等の試作品を作製した。</p> <p>試作品は商談ベースの展示会に出展し、百貨店やセレクトショップバイヤー等からコンセプト、製品デザインともに高い評価を得、市場性があることを確認した。</p> <p>また、原皮の安定供給に向けた取組として、富士北麓地域においてニホンジカの電波追跡調査を行い、同地域内での生息状況を把握した。併せて、ニホンジカの肉や皮を有効利用するために必要なポイントについてまとめた冊子を作製した。</p> <p>得られた成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白色度の高いニホンジカ革 環境負荷の極めて少ないリン酸系鞣製剤を用い、工業的ななめし革には極めて珍しい白色のニホンジカ革（無染色・無漂白）を作製することができた。 2. 印伝加工が可能なニホンジカ革 なめし革の表面（銀面・皮裏）の調製を繰り返し、印伝加工（革表面に型紙を用いて漆を乗せる）を可能とする状態にまで調製することができた。なお、厚みは製作するもののサイズによって使い分けることができるよう0.7mmと1.2mmを作製した。 				

	<p>3. 物性評価 作製したニホンジカ革をはじめ、キョン革、エゾシカ革、NZ産鹿革の機械的性質について、伸び、吸水度、引張強さ、引裂強さ、厚さ、吸湿度、耐屈曲性、半球状可塑性、透湿度、はっ水度を求め比較し、素材として遜色のないことを明らかにした。</p> <p>4. 印伝文様の新規開発 スクリーン印刷版を簡易型紙として用い、ニホンジカ革への施漆による仕上がり状態を確認しながら模様の間隔や大きさ等の調整を行い、カモフラージュ柄やヘリンボーン柄等、これまでの甲州印伝にはなかった7柄を完成させた。</p> <p>5. 印伝製品の開発 「研究終了後における早期の市場投入を意識した定番商品」「従来とは異なるターゲットへのアプローチを意識した新奇商品」の二つの方向性を設け、次の試作品を企画・デザイン～制作した。 定番商品：①名刺ケース ②長財布 新奇商品：③大型トートバッグ ④縦型トートバッグ ⑤ポーチ</p> <p>6. 市場性評価 試作品のうち、名刺ケース及び長財布を「第83回東京国際ギフトショー」に出展し、百貨店やセレクトショップバイヤー等の受容性評価を行った。その結果、コンセプト、仕上がりともに高い評価を得、取引意向が示された。また、この時の調査結果から、試作品に対する男性バイヤー、女性バイヤーの評価傾向を特定した。</p> <p>7. 電波追跡調査の実施 将来的な原皮の安定供給に向け、富士北麓地域に生息するシカの生態情報調査を電波追跡調査により行った。箱ワナにより捕獲した4頭のニホンジカのうち幼獣にVHF発信機、成獣3頭にGPS発信機を取り付け、最長で100日程度の追跡調査を行い、同地域内での鹿の生息状況を推察することができた。</p> <p>8. 冊子「鹿の有効利用」の作成 ニホンジカの肉や皮を有効利用するために必要なポイントについて、イラストや写真を含めて冊子の体裁にまとめた。様々な情報端末での閲覧や印刷利用を意識し、冊子データをPDFファイルにて取りまとめた。</p>
<p>研究内容の変更 * 中間評価後に研究計画、研究予算等の見直しを行った場合、変更点およびその理由を記載して下さい。</p>	<p>○特になし</p>
<p>研究成果活用の方策 * 研究成果の波及対象（行政、民間企業、生産者等）、ならびに波及方法を記載して下さい。</p>	<p>○開発した商品の実売によるブランド化の推進 ・平成29年6月9日（金）から甲府、南青山、神戸の3か所で試験販売を開始している。8月からは本生産に入る予定。 ・本研究をきっかけとし、県内市町村、猟友会、印伝事業者が連携して本県ニホンジカの有効利用に取り組んでいく基盤ができた。</p>

	<p>○「捕獲・加工マニュアル」の配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度から県庁内で発足した「ニホンジカ活用ワーキンググループ」と連携し、冊子の配布，情報共有に取り組む。
<p>継続研究計画</p> <p>* 目的達成のための中期計画のなかで、当初より継続研究を計画していた場合には、具体的計画を記載して下さい。</p>	<p>○特になし</p>